

## 平成28年度 第3回

### 西宮市参画と協働の推進に関する条例評価委員会 会議録（要約）

日 時：平成28年7月26日（火）18時00分～20時30分

場 所：西宮市役所東館805会議室

出席者：【委員】中川幾郎（会長）、川東美千代（副会長）、横田祥子、生田 收、  
東 朋子、津田勝啓、長谷川真治

【事務局】コミュニティ推進部長 下野邦彦、市民協働推進課長 谷口博章、  
同係長 松野歳之、同副主査 後藤理恵

#### 1. 開会

#### 2. 審議事項

##### 議題1 傍聴に関する取扱いについて

傍聴希望者なし。

##### 議題2 平成27年度の協働事業提案手続以外の協働事業の評価について

###### ○事務局

- ・協働事業提案手続以外の協働事業について説明。

###### (1) 「コミュニティ推進大会」について

###### ○委員

- ・非常によくやっていると思う。西宮コミュニティ協会発行の地域情報誌『宮っ子』をPRする時間を設けてはどうか。
- ・表彰については、地域で地道に活動している人のことをみんなに知ってもらえるいい機会だと思う。
- ・参加者やアンケートの回答者が少ないのが気になった。また、アンケートに回答した人はほとんどが有意義だったと言っているが、回答しなかった人はどう思ったのだろうか。団体関係者の参加が多いと思われるが、この内容に興味の薄い人に対してどのように普及していくかというところに力を入れてもいいのではないか。  
→（委員）参加者とアンケート回答者が少なかったのは、当日が大雨であったことや、早く帰宅したい人が多かったことが影響した可能性がある。
- ・アンケートを実施しており、書かれているコメントも丁寧。事業実施者としての説明責任を果たしているように感じる。協働事業報告書の市側の事業課題に、「団体側の参加者が多く、一般参加者を増やす工夫が必要」とあるが、この大会の裾野が団体関係者だけでなく、市民にも広

がっているかが気になった。

- ・参画と協働にふさわしい事業と考える。協働事業報告書の協働の課題欄に「市側で啓発したい内容と、団体側で興味を持つ内容にずれが生じる場合がある。」という記載があったため、事業実施にあたっては、しっかりと協議を重ねて事業を実施してもらいたい。
- ・西宮コミュニティ協会に所属し、活動している。一般参加者を増やすという点について、団体から自治会等への参加呼びかけは行っているが、そもそもコミュニティ協会自体が一般の人たちの集まりなので、一般の人に参加をしてもらうということの考え方が難しい。また、コミュニティ推進大会という名称が、硬い印象を与えてしまうように感じるので、もう少しわかりやすい名前がよいのではないかと思う。

#### ○会長

- ・コミュニティ協会を設置していることはすごく意味のあることで、今後も大事にしていかなければならない。この大会が被表彰者のための大会と錯覚されないように、一般の人にも間口を広げ、コミュニティの大切さを感じてもらえるような工夫をお願いしたい。

#### ○評価

【平均点】 3.5点  
【総合評価】 C 「適切である。」

### (2) 「男女共同参画センターウェーブ市民企画講座」について

#### ○委員

- ・市民企画による講座自体は貴重なものであるが、団体と市が、自己評価書のほとんどの項目で「1. できた」に丸をつけている点に引っかかりを感じる。1回目の講座は参加者が少なかったこともあり、振り返るべき点があったのではないか。
- ・ウェーブの活動には時々参加させてもらっているが、とてもよい企画が多い。それだけに、もっと広報に力を入れてもよいと考える。青少年団体や教育系の団体にも積極的に広報してはどうか。
- ・自己評価書の評価について、団体、市ともにほぼ「1. できた」としていることに疑問を感じる。また、「男女共同参画社会の実現」という目的と講座の内容が合わないように感じた。深く掘り下げていけば合致するのかもしれないが、「イラク戦争」や「発達障害」をテーマにした講座が、「男女共同参画社会の実現」という目的にはすぐに結びつかない。参加者が少ない一方で、市外の参加者の割合が大きい点も気になった。市の講演会なので市内の参加者をもっと増やすべきではないか。  
⇒（事務局）西宮市男女共同参画プランに含まれている内容が対象になっており、例えば、イラク戦争をテーマにした講座は、同プランの「多文化共生と国際理解の推進」に該当する。
- ・「発達障害」をテーマにした講座は、募集テーマに沿った内容であり、参加人数も多い。事業報告書もきちんと記載しており、事業実施者としての説明責任を果たしている。予算も講師謝礼

の5万円を上限にしていることから、お金を効果的に使っていると感じた。一方、「イラク戦争」をテーマにした講座が、西宮市の男女共同参画センターの市民企画講座で取り扱うテーマとして妥当であったのかは疑問。西宮の市民の目線がどうして「イラク戦争」にまで行ってしまうのか、やや拡大した解釈になっているように感じた。

- ・講座のテーマが、市民企画講座の趣旨・目的に沿っていないように感じる。また、行政の行う範囲があらかじめ決まっており、協働の要素が薄いように思う。
- ・行政よりも市民のほうが取扱いやすいテーマや内容というものがあると思う。市民目線で企画した講座で、その趣旨を一般市民に広めることができたことは良かったと思う。

#### ○会長

- ・コンセプトがずれていないかという各委員の意見ももつともではあるが、対象となる話がソーシャルマイノリティ（社会的少数者）の人権であるとする、参加者が少ないことを含めてやむをえないと考える。むしろ、そういった問題に理解のあるコアな市民層が増えていくことのほうが、効果が高いのかもしれない。広く一般市民に対象を広げることでも可能ではあるだろうが、逆に男女共同参画のテーマを掘り下げることができなくなる可能性がある。

#### ○評価

【平均点】 3.2点  
【総合評価】 C 「適切である。」

#### (3)「平成27年度 西宮市「親子のよい歯のコンクール」」について

##### ○委員

- ・3歳児検診受診者の中で、検診時に抽出したよい歯の親子を対象にしているとのことであるが、対象者が12組と少なく、事業内容もマンネリ化している印象を受ける。
- ・伝統のある事業かもしれないが、県の大会が廃止されたこともあり、市が協働して実施する意義が薄いように感じる。
- ・団体側の自己評価書の評価がすべて「2. 概ねできた」になっており、課題等の記載もないことから、事業の振り返りが行われていない印象を受けた。また、自分にも子供がいるが、この事業を実施していること自体知らなかった。もう少し広くPRしてもよいと思う。
- ・長く続いている事業ではあるが、参加者が少なく、あまり広がりが無いように感じる。目的に「市民の歯科衛生に関する意識の啓発を図る」とあるが、12組（24人）という非常に限られた範囲での啓発にとどまっているのではないかと感じる。また、前の委員の意見にもあったように、団体側の自己評価書の評価がすべて「2. 概ねできた」になっていることや、コメントがないことから、積極性や前向きさが感じられない。対象を限ったコンクールではなく、「よい歯を作るための磨き方講座」のような広がりのある事業にしたほうがいいのではないかと感じる。
- ・よいことを実施しているとは思いますが、団体側が今後この事業をどのようにしていきたいかという点が資料からは見えてこない。
- ・参加人数が少ない点や、広がりが見られない点から評価を低くした。参加賞や表彰楯にかかる

費用が大きい点も気になる。個人の表彰もいいが、例えば幼稚園を対象とした取り組みや、歯やあごの発達に関する説明など、もっと広がりを持たすような工夫も考えられるのではないかな。

#### ○会長

- ・参加者が少ないことが気になる。また、昔から実施していることをずっと続けているという印象が強い。優良な人を表彰するよりも、子供の歯の健康の大切さを啓発するほうに力点をおいたほうが、高い効果が得られるのではないかな。

#### ○評価

【平均点】 2.5点

【総合評価】 D 「課題はあるが、ほぼ適切である。」

#### (4)「献血推進大会」について

##### ○委員

- ・大会の中でいきいき体操を実施するなどの工夫があり、充実した内容になっている。
- ・献血推進活動には、地域住民に加えて、企業や大学などの若い人たちも多く参加している。個人的には体調の関係でなかなか献血に協力できなかったが、この大会に参加したことで献血をしようという気持ちになった。講演会も親しみやすい内容でとても面白かった。
- ・献血協議会の活動自体は有意義と思うが、「献血推進大会」のみを見るとその役割が見えにくく、協働事業としては疑問が残る。また、事業名からは大会の内容がイメージできず、参加しにくいように感じる。
- ・参加者のアンケートがなく、また、講演会のテーマが「日本食のすばらしさ」とあるが、この内容がどのように献血の啓蒙につながるのかが見えにくい。たくさん献血した人を表彰するよりも、むしろ市民一般に裾野を広げるような啓発の形があってもいいのではないかと感じた。  
⇒（事務局）講演会のテーマ選定について事前に担当課に確認したところ、テーマを献血に限定すると講演の幅が狭くなるので、テーマを広く解釈して設定しているとのことであった。献血をするには健康な体が必要であり、その基礎となる部分が食であることから、今回はこのテーマを設定したと聞いている。
- ・団体側の役割が、各地区での周知や当日の受付など限定的なものとなっており、協働の事業として不十分に見えた。
- ・事業自体の必要性は高いものと考えてるが、協働して実施している姿が見えてこない。協議会に加わる各主体が、どうすればより多くの方に献血してもらえるのかということと一緒に考えて、適切な協働につながっていくものと考えてる。

##### ○会長

- ・献血をしてくれる方に対する表彰も悪いことではないが、一度も献血をしたことがない人に献血をしてもらうなど、未開拓の分野に手を広げていくという発想が必要である。  
⇒（委員）一般市民の参加は可能なのかな。

⇒（事務局）参加は可能だが、広報は行っていない。

- ・地区ごとに献血会を組織している自治体は少ないのではないか。これは西宮市の資産であり、今後も大切にしたい。

#### ○評価

【平均点】 3.1点

【総合評価】 C 「適切である。」

#### (5)「黒川古文化研究所 夏季講座」について

##### ○委員

- ・団体と市との共催事業とすることで、専門的な内容の講義を市が支援しているというアピールにつながっていると感じた。ただ、団体側の自己評価書を見ると、自立性の尊重の項目で「干渉の余地はありえない」といった厳しい言い回しが見受けられることもあり、両者の関係性は対等でないように感じた。
- ・市の自己評価書に「利便性のよい勤労会館で講座を実施している」との記載があったが、結果的には400人収容のホールに対して、150人前後の参加者となっている。チラシを見ると非常に硬そうな印象を受けるので、もっと親しみやすいものにした方が、一般市民を含めたより多くの参加が期待できるのではないか。
- ・報告書に記載の役割分担をみると、テーマ設定、講師の招致、費用負担など、重要な役割はすべて団体側が担っているように見受けられた。専門性の高い講座の開催に関わりたいという市側の思いがあるのかもしれないが、担っている役割を考えると共催事業と言えないのではないか。  
⇒（会長）共催について疑義を呈する発言があった。これは非常に重要な視点であるので、後ほど整理したい。
- ・団体側が、30年以上にわたって毎年100名を超える参加者があることを満足感の表れと評価しているが、アンケートなどをとり、客観的に評価したほうがよいと考える。  
内容的には、大阪の国立国際美術館で「始皇帝と大兵馬俑」展が開催されていることもあり、タイムリーなテーマ選定となっている。今回のように、国や都道府県のイベントなど、その時々  
の時勢に合ったものとリンクするようなテーマを設定すると面白い。
- ・詳しい事情は分からないが、資料を見る限り、この事業を共催と呼ぶことに違和感がある。一部だけの関わりをもって共催というのは適切ではない。
- ・共催という点については疑問に感じることもあるが、高度に専門的な講座の開催や、よりレベルの高い学習を求めている市民を応援しているという姿勢を市がアピールしたかったのではないか。

##### ○会長

- ・講座自体は良いものと思うが、これは共催ではなく、団体側の自主事業に対する後援のように見えた。共催と銘打って行うのであれば、企画会議を開催し、事業目的、事業内容、役割分担

等について団体と市が協議したうえで実施すべきである。市の費用負担が一切ないことも気になる。純粹な意味での共催は費用折半が基本であり、そこから両者の協議を経て負担の割合を考えていくことになる。今後、共催や後援の線引きをきっちりと整理したほうがいいのではないか。

⇒（事務局）「委託・補助・共催・後援」などの協働の形態について、正確に認識できていない市職員も多いと思われる。また、毎年、市の協働事業の一覧を当課がとりまとめているが、協働の形態が正しく記載されているかどうかというチェックまでは行っていないのが現状である。

協働に対する市職員の理解が進んでいない中で、当委員会から寄せられた意見を担当課にフィードバックしても大きな効果を得ることはできず、このあたりが今後の課題と考えている。今後、過去の評価報告書や会議録をもとに協働マニュアルを作成し、マニュアルをもとに協働に関する周知を庁内で行っていくなど、効果的な啓発方法を検討していきたい。

⇒（会長）庁内で協働に関する啓発を行う際は、プロセスの重要性についても啓発学習して欲しい。現状はどうか、課題は何か、どのような事業組立がベストかという議論やプロセスをすべて飛ばして、単に実施している事業に協力してもらうことが「協働」というような勘違いをしていないか。

また、「委託・補助・共催・後援」という協働の形態は、労力や金銭の負担の程度の違いといった横軸的な話になるが、それとあわせて、「意思形成過程」における協働、「意思決定過程」における協働、「事業実行過程」における協働、「評価修正過程」における協働という縦軸も意識する必要がある。意思形成・意思決定・事業実行という過程をきちんと経ているからこそ「評価修正過程」の協働が成り立つのであり、「事業実行過程」の協働しか見ていなければ適切な評価はできない。協働事業の実施にあたっては、この縦軸と横軸をしっかりと意識していただきたい。

## ○評価

【平均点】 2.8点

【総合評価】 D 「課題はあるが、ほぼ適切である。」

## (6)「西宮市学校保健会研究大会事業」について

### ○委員

・食物アレルギーに関する研究報告は、大会の中でどのように扱われているのか。

⇒（事務局）協働事業報告書の団体側の課題解決策欄に「講演のみでなく研究発表等を取り入れた開催の方法を、市担当者と共に検討する」との記載がある。

・学校保健会はどのような団体で構成されているのか。

⇒（委員）他市で学校保健会に関わっていたが、学校保健会は、学校保健に関する調査研究等の実施を目的に、医師会・歯科医師会・薬剤師会の三師会、P T A協議会、学

校・教育委員会で構成された団体である。また、研究大会は、表彰伝達や学校関係者等にとっての研修の場となっており、基本的には教育委員会や学校の教員が中心に運営を行い、そこに三師会が協力するという形になっている。

- ・市の委託料によって実施している事業であり、事業を実施する意義はあると思うが、適切かつ効果的な協働ができているのかが気になった。
- ・「大会の企画への参画」が団体側の役割の一つであるにも関わらず、「市の担当に企画運営案を任せられた形になっている」との記載があり、協働事業としては疑問が残る。
- ・実施しているのは表彰式と講演であり、研究大会という名称に合っていないように感じる。研究が目的であれば、研究発表の場がないと研究大会とは言えないのではないか。
- ・研究大会という名称でありながら研究発表の場がなく、内容的には表彰式と講演のみになっている点が気になった。

#### ○会長

- ・本来であれば学校保健担当課の専管事項といってもいいくらい大事な内容であるが、西宮市の学校現場がどういった保健課題に直面しているかという現状分析や、課題解決に向けた関係団体同士のやり取りが、提出された資料からは見えてこない。委託事業であれば、関係団体の専門的な意見を取り入れ、学校保健会へのコントロールを効かせながら事業を進めていかなければならない。もしも教育委員会が企画運営の大部分を担っているということであれば、委託事業として、また、協働事業として不適切と言わざるを得ない。

#### ○評価

【平均点】 2.1点

【総合評価】 D 「課題はあるが、ほぼ適切である。」

#### <全体意見>

##### ○委員

- ・市政報告会において市長が、西宮市が掲げる「文教住宅都市」という名称に変わりがなくても、意味や課題は時代によって変化するため、課題の洗い出しをしっかりと行うように職員に指示しているという話をしていた。課題はその時代によって変化するものであり、特に長年続いている事業については、変化する課題に対応した取組を行うという認識を持つことが必要と考える。本日評価の対象となった事業で「〇〇大会」という名称が複数見受けられたが、その名称は果たして今の時代に合っているのだろうか。

##### ○会長

- ・事業ごとに「委託・補助・共催・後援」というカテゴリーを精密に見直したほうがいいと思われる。その過程において、その予算の執行が正しいのかという疑問につながる事業も出てくるかもしれない。後援であれば助成金、共催であれば負担金や分担金として執行すべきという考え方や、委託料を出す場合は、部分委託であれば共催も可能という考え方もあり得る。協働の

カテゴリーの仕訳と予算の仕訳はオーバーラップする部分があるので、もう少しきちんとした整理が必要と考える。

また、協働事業として実施するのであれば、現状の認識からスタートして、課題を共有するプロセスを大切にして欲しい。そのプロセスが抜けてしまうと、定型的な役割分担や慣行的に事業をこなすだけという状況に陥ることになる。

<参考：議題2の評価結果一覧>

No.	案件名	平均点	総合評価
1	コミュニティ推進大会	3.5点	C
2	男女共同参画センターウェーブ市民企画講座	3.2点	C
3	平成27年度 西宮市「親子のよい歯のコンクール」	2.5点	D
4	献血推進大会	3.1点	C
5	黒川古文化研究所 夏季講座	2.8点	D
6	西宮市学校保健会研究大会事業	2.1点	D

### 3. 事務連絡

#### ○事務局

- ・第4回の評価委員会の議題について説明した。  
⇒議題が多いので、時間配分を検討するものとした。

### 4. 閉会

以上